

ヨリ

(2). 現世

- 東部アジア…印度ベンガル、カシミア→支那→日本→満洲
- 日本 台湾、九州、四国、本州……北限 太平洋岸38°30′ N、日本海岸37°55′ N。
- 本県 小倉市大島、粕屋那須恵村亀山炭坑附近、鞍手郡胡村、築上郡八津田村、筑紫郡雑餉隈、三潞郡大溝村、八女郡水田村、朝倉郡馬田村、柳河地方、嘉穂郡穂波村小正ノ池(石井氏)、粕屋郡中原村(阿武氏)

V 発生

1. 四月終り頃ヨリ発芽ヲ始メ先、珠孔ノ所ヨリ四突起ヲ生ズ。
2. 五月中旬 線状葉ヲ出ス。長凡11cm。
3. 第二葉 三叉槍状、第三葉 鈍頭ノ矢ノ根石状。
4. 六月 第四葉 水中ハ巻キ、水面ニ出ツレバ、深キ

切レ込ミアル楕円葉トナル。(コレヨリハミナ浮水葉トナル)

5. 七月上旬迄ニ第十葉ヲ生ズルモ、漸次広サヲ増スノミナルガ、コノ頃ヨリ切レ込ノ癒合始マリ、裏面及葉柄ノ上部ニ刺ヲ生ズ。
6. 七月下旬 第十四、五葉トナレバ完全ニ円形ノ葉トナリ、葉柄ハ楕形ニツク。
7. 八月初旬 *Nymphula interruptalis?* ニ蝕害セラル。
8. 八月五日 移植、池中ニ移シタルモノハ生育ヨロシ。
9. 花ハ八月中ニ生ズルモ、九月ニ入りテ盛ニ生ジタリ。
10. 葉ハ第十二葉位マデハ大トナルモ、ソレヨリ後ニ生ズルモノハ漸次小トナル。11月中旬ニテ殆ソド腐敗シ去ル。

◎2.5×1.5cm位ノ種子ニテモヨク発芽セリ。

△本植物ハソノ発生中系統発生ヲ繰リ返スモノナランカ?

昭和13年11月24日 福岡中學校ニテ

ホソバミズヒキモに発生した瘤(gall)

浜島 繁隆

鈴木(1981)はガガブタ(*Nymphoides indica*)の浮葉に発生した瘤(gall)を観察し本誌上に報告した。その後、ガガブタの浮葉について名古屋市名東区の「塚の杵池」で、鈴木の発表したと同じ形態のgallを観察した。特異な形態をするgallは、野外調査で目にとまるはずであるが、今迄にあまり観察することはできず、水草にgallが発生することは、比較的希な現象ではないかと思われる。

gallは原因となる生物により虫エイ、菌エイと分類している。ここに報告するホソバミズヒキモ(*Potamogeton octandrus* Poir.)のgallはどれに類するか明らかでないが、gall内部は細胞で充満し、虫室が見られないことから菌エイと思われる。しかし、動物の癌のようにホソバミズヒキモ自身の内因によるのかもしれない。

1993年8月28日、鈴木 淳君の案内で瀬戸市曾野町の山間のため池を調査中、ホソバミズヒキモの節に図のようなgallを見つけた。発生部位は茎の節で、葉の附着部をつつみ込み、3.7mm×2.1mmの楕円形のgallをつくっていた。つつみ込まれた葉はほとんど枯れた状態であっ

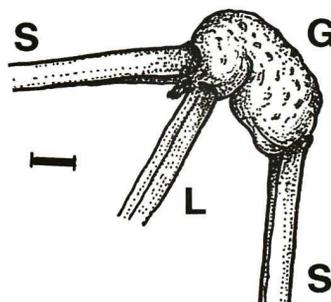


図 ホソバミズヒキモの瘤(gall)  
G: 瘤(gall). S: 茎 L: 葉 スケール 1mm.

た。gallの表面は褐色でやや緑色をおび、多少の凹凸が見られた。指で押すとつぶれる程の柔らかさで、内部は水分を多量に含み、空所は見られなかった。gallの表面には糸状藻が多数附着していた。

なお、このため池にはホソバミズヒキモ以外にフトヒルムシロ、イヌタヌキモ、岸边には、アシカキ、マコモが生育し、山間の代表的なため池で水色は褐色をしているが、水質の富栄養化はみられない。

文献

鈴木達夫(1981)ガガブタのゴール. 水草研究会会報 6: 10.